

## 1. はじめに

宮津市は、「豊かな学びを深めてふるさとを愛する人づくり」を教育の基本理念に掲げ、「変化していく社会で、ともに学び合い、挑戦し、ふるさと宮津への愛と誇りを持って、明日の宮津を創造していく人」を目指す人間像として、『宮津の新しい教育の創造』に向けた取組を進めています。

社会のあり方が劇的に変わる「予測困難な時代」が到来するなか、教育現場においては、主体的・対話的で協働的な学びの実現により、「持続可能な社会の創り手」となる子どもたちを育てることが求められています。

このような背景を踏まえ、子ども達にとってより良い教育、より良い教育環境について議論するため、「宮津市学校施設等の在り方検討委員会」が設置されました。

当委員会に諮問された事項は、次の3点です。

- (1) 求められる資質や能力を育成するために必要な教育環境
- (2) 望ましい幼児教育の在り方
- (3) 望ましい教育環境の実現に向けた学校施設等の配置

諮問事項に対し、当委員会では、(1) 宮津市の目指すべき教育、(2) 望ましい教育環境の実現に向けて の視点で議論し、これからの時代に求められる学校・学校施設の在り方について提言としてまとめました。

今後は、提言を参考に、保護者や地域の理解を得ながら、子ども達にとって、真に望ましい教育環境を整えていくことを願いますとともに、宮津市の教育がより一層充実・発展することを期待します。

令和4年12月

宮津市学校施設等の在り方検討委員会  
委員長 竺 沙 知 章

## 2. 検討の背景

### (1) 宮津市の人口、児童生徒数の現状と推移

宮津市の人口は、昭和30年（1955年）には36,200人であったが、その後は一貫して減少を続け、平成22年（2010年）の国勢調査における人口は19,948人に、令和2年（2020年）には16,758人となり、10年間で3,190人、約16%が減少した。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和22年（2040年）には10,780人まで減少することが見込まれている。

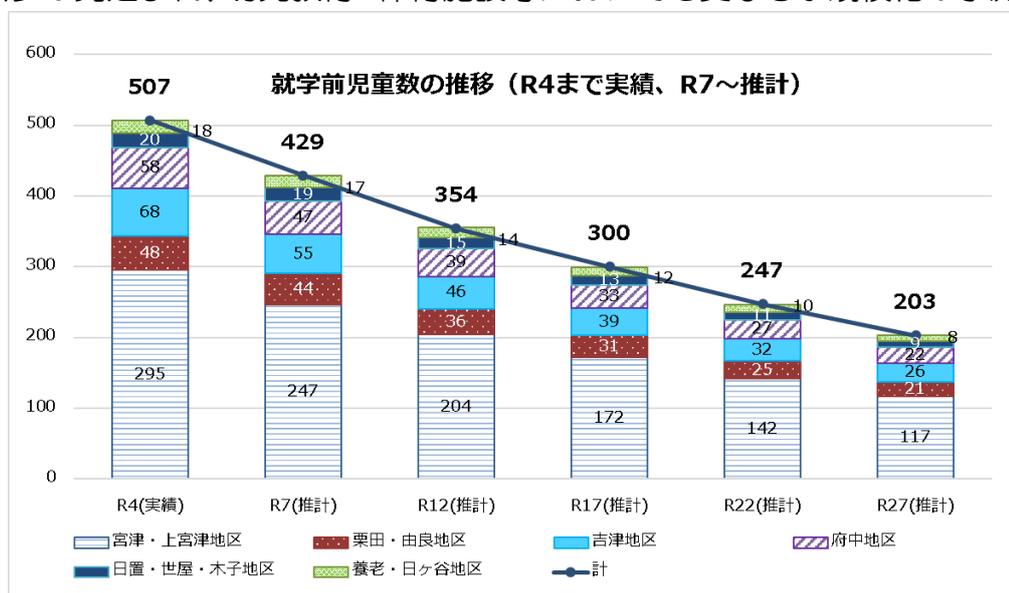
宮津市の小中学校の児童・生徒数は、平成22年度（2010年度）における児童数が964人、生徒数が541人であったが、令和2年度（2020年度）には児童数689人、生徒数が422人と10年間で計394人、約26%が減少した。

学校基本調査及び学年別人数統計による推計では、令和9年度（2027年度）には、児童数が521人、生徒数が326人とさらに減少する見込みであり、宮津市の全小中学校において、さらに小規模校化や少人数化が進むと予測される。

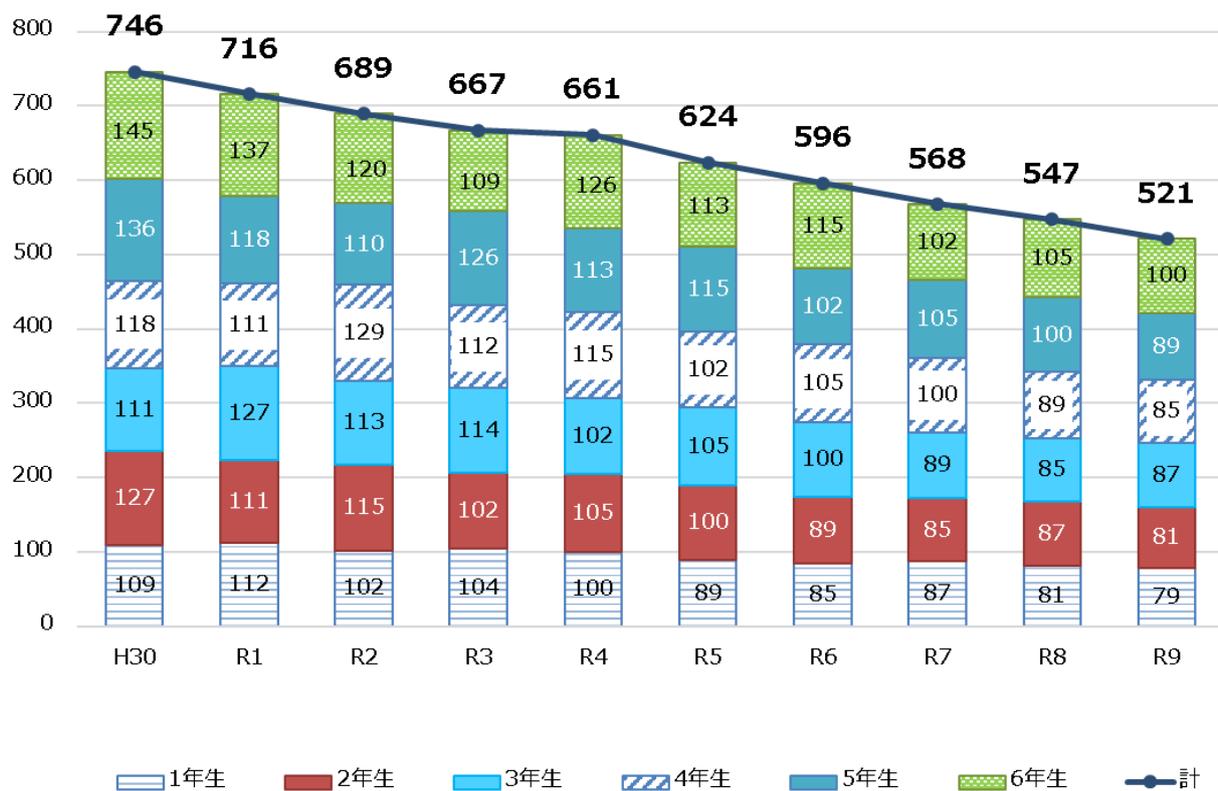
※いずれも学校基本調査（5月1日時点）の児童・生徒数  
 ※生徒数には、与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校に在籍する宮津市居住の生徒数を含む。

また、0～5歳の就学前児童数については、平成22年（2010年）の国勢調査では792人であったが、令和2年（2020年）には521人となり、10年間で271人、約34.2%が減少した。

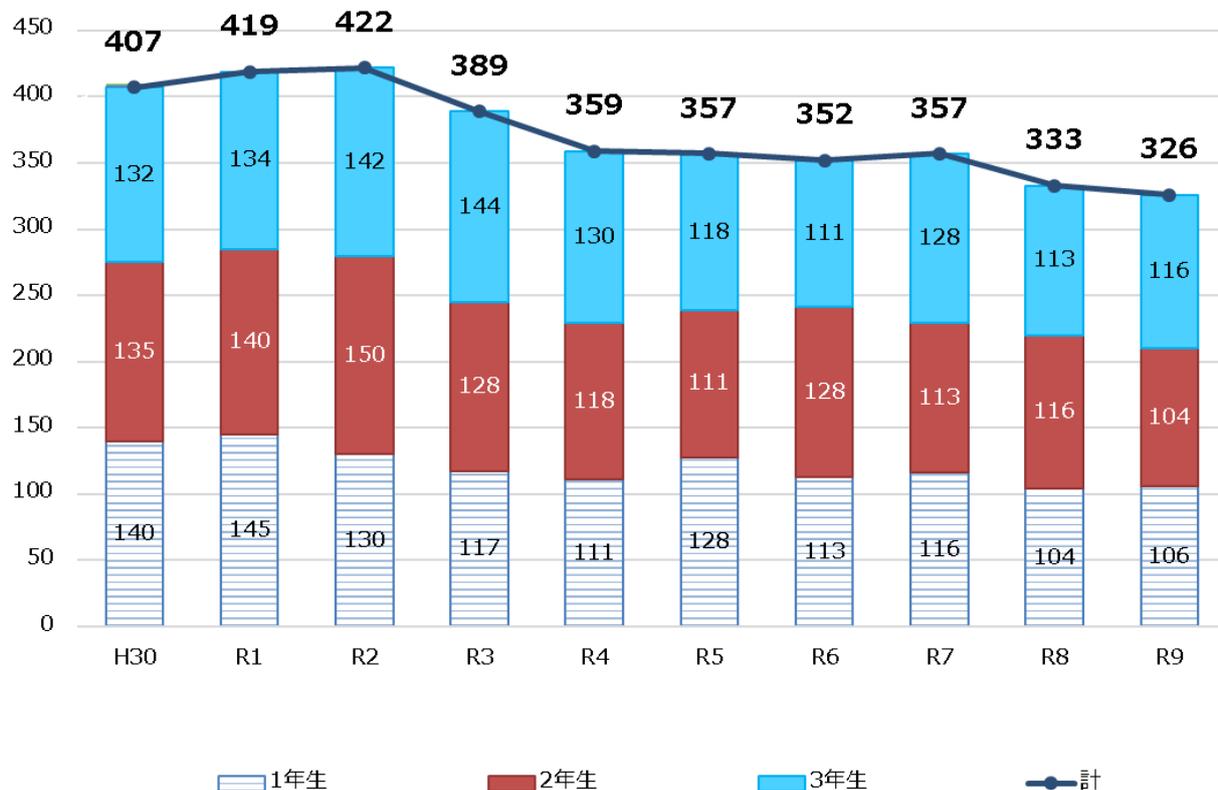
国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所の推計値から算出した今後の推移では、令和7年（2025年）には429人、令和22年（2040年）には247人まで減少が見込まれ、幼児教育・保育施設等においても更なる小規模化が予測される。



【小学校】児童数の推移（R4まで実績、R5～推計）



【中学校】生徒数の推移（R4まで実績、R5～推計）



## (2) 学校規模の現状と推移

宮津市では、児童・生徒数の減少を喫緊の課題ととらえ、平成 20 年度に宮津市教育・保育施設再編検討委員会を設置し、当委員会から「教育・保育施設の統廃合等を含めた再編の在り方について」の提言を受け、平成 21 年 3 月に『宮津市立小・中学校の再編計画』を、平成 25 年 2 月に『第 2 次宮津市立小・中学校の再編計画（北部地域編）～よりよい教育環境整備のために～』を策定し、以下の基本方針に基づき、学校施設等の統廃合を行ってきた。

### ◆学校再編の基準（H21.3 月策定「宮津市立小・中学校再編計画」より）

- ア) 学校規模は、小学校は 6 学級から 18 学級まで、中学校は 3 学級から 12 学級までとし、1 学級の人数は 20 名から 35 名までとするが、地域性に配慮し、その基準に該当しない場合も許容とする。
- イ) 通学による適正距離は、徒歩による場合、原則として、小学校 4 km、中学校 6 km を限度とし、この距離を越える場合は、スクールバス等の通学手段を検討する。ただし、バスによる通学時間は、精神面・体力面を考慮して、小学生は 45 分程度、中学生は 60 分程度を限度とする。
- ウ) 「複式学級」については、学年別によらない指導を行うことで、多くの体験ができる一方で、1 人の教諭が 2 学年同時に指導することから、1 つの学年の指導を受けている間は、他の学年の児童は、自主的学習を進めなければならないとの課題があることから、複式学級が編成されている学校は、学校再編の対象とする。
- エ) 宮津市の南北に長い地域特性を考慮し、行政の枠を超えた学校再編も検討する。
- オ) 与謝野町宮津市中学校組合立橋立中学校は、与謝野町との協議を踏まえ、現行どおり存続とする。

### ○統廃合の状況

#### 【中学校】

- ・日置中学校を組合立橋立中学校に統合（平成 26 年 4 月）
- ・養老中学校を組合立橋立中学校に統合（平成 29 年 4 月）

#### 【小学校】

- ・由良小学校を栗田小学校に統合（平成 25 年 4 月）
- ・上宮津小学校を宮津小学校に統合（平成 27 年 4 月）

#### 【市立幼稚園】

- ・由良幼稚園を休園し栗田幼稚園に統合（平成 24 年 4 月）

#### 【市立保育所】

- ・宮津保育所を民営化し私立保育園に移行（平成 14 年 4 月）
- ・吉津保育所を民営化し私立保育園に移行（平成 20 年 4 月）
- ・府中保育所を民営化し私立保育園に移行（平成 24 年 4 月）
- ・上宮津保育所を休所（令和 2 年度末）

○小中学校の学級編成（令和4年度現在）※特別支援学級は含まず

【小学校】

- ・宮津小学校 15 学級
- ・栗田小学校 6 学級
- ・吉津小学校 6 学級
- ・府中小学校 6 学級
- ・日置小学校 5 学級（複式 1 学級）
- ・養老小学校 3 学級（複式 2 学級）

【中学校】

- ・宮津中学校 8 学級
- ・栗田中学校 3 学級

宮津市立幼稚園・小学校・中学校の園児児童生徒数

（令和4年5月1日現在）

区分 校名	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計		合計	R4.4.1					
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		計	計				
宮津小学校	36	19	41	25	30	31	39	34	33	40	47	36	226	185	411	226	185				
	55		66		61		73		73		83					411					
栗田小学校	7	4	7	5	8	5	7	11	4	2	4	8	37	35	72	37	35				
	11		12		13		18		6		12					72					
吉津小学校	4	7	1	5	5	5	5	2	4	6	5	3	24	28	52	24	28				
	11		6		10		7		10		8					52					
府中小学校	4	9	9	6	7	6	6	6	8	6	7	5	41	38	79	41	38				
	13		15		13		12		14		12					79					
日置小学校	3	5	2	3	3	2	0	4	4	0	2	3	14	17	31	14	17				
	8		5		5		4		4		5					31					
養老小学校	1	1	1	0	0	0	0	1	1	5	3	3	6	10	16	6	10				
	2		1		0		1		6		6					16					
小学校計	55	45	61	44	53	49	57	58	54	59	68	58	348	313	661	348	313				
	100		105		102		115		113		126					661					
区分 校名	1年		2年		3年																
	男	女	男	女	男	女															
宮津中学校	29	39	41	32	39	46											109	117	226	109	118
	68		73		85												227				
栗田中学校	5	7	7	10	10	7											22	24	46	22	24
	12		17		17												46				
中学校計	34	46	48	42	49	53											131	141	272	131	142
	80		90		102												273				
区分 園名	年少		年中		年長																
	男	女	男	女	男	女															
宮津幼稚園	3	3	5	5	4	1											12	9	21	12	9
	6		10		5												21				
栗田幼稚園	2	0	4	4	1	2											7	6	13	7	6
	2		8		3												13				
幼稚園計	5	3	9	9	5	3											19	15	34	19	15
	8		18		8												34				
総計													498	469	967	968					

与謝野町宮津市 組合立橋立中学校 （宮津市分）	15	16	14	14	11	17							40	47	87	40	47
	31		28		28								87		87		

※与謝野町宮津市組合立橋立中学校の生徒数については、宮津市在住の生徒数である。

《市立小中学校・幼稚園・保育所の児童生徒数の推移》

(人)

市立小学校	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
宮津小学校	519	484	474	461	461	483	484	478	466	464	437	422	411
上宮津小学校	33	31	25	23	23	H27～上宮津小学校を宮津小学校に統合							
栗田小学校	103	94	99	120	121	113	98	92	76	78	78	73	72
由良小学校	36	35	32	H25～由良小学校を栗田小学校に統合									
吉津小学校	105	109	105	97	97	87	79	66	68	58	54	48	52
府中小学校	100	95	80	87	85	77	76	78	81	68	66	79	79
日置小学校	18	19	26	30	27	24	24	26	22	21	26	27	31
養老小学校	50	40	42	40	33	36	30	39	33	27	28	18	16
計	964	907	883	858	847	820	791	779	746	716	689	667	661

※児童数はいずれも5月1日時点

(人)

市立中学校	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
宮津中学校	319	328	316	298	280	258	229	225	234	246	247	235	226
栗田中学校	80	72	69	76	64	65	62	60	61	55	60	52	46
(橋立中学校)	102	107	114	110	104	103	98	114	112	118	115	102	87
日置中学校	11	9	7	5	H26～日置中学校を組合立橋立中学校に統合								
養老中学校	29	27	24	23	22	20	22	H29～養老中学校を組合立橋立中学校に統合					
計	541	543	530	512	470	446	411	399	407	419	422	389	359

※生徒数はいずれも5月1日時点 ※組合立橋立中学校は宮津市在住の生徒数

(人)

市立幼稚園	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
宮津幼稚園	61	49	48	45	28	44	48	39	35	31	21	22	21
栗田幼稚園	23	23	17	22	17	14	20	21	23	17	12	19	13
由良幼稚園	4	5	5	H25～休園									
計	88	77	70	67	45	58	68	60	58	48	33	41	34

※児童数はいずれも5月1日時点

市立保育所	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
宮津保育所	H14～民営化(亀ヶ丘保育園に移行)												
上宮津保育所	5	7	12	13	13	12	17	13	10	10	9	R3～休所	
吉津保育所	H20～民営化(吉津保育園(子ども園)に移行)												
府中保育所	46	46	H24～民営化(府中保育園(子ども園)に移行)										
日置保育所	10	9	10	10	15	13	13	13	13	12	12	9	4
養老保育所	16	23	16	15	16	13	15	10	8	10	8	8	9
計	77	85	38	38	44	38	45	36	31	32	29	17	13

※児童数はいずれも4月1日時点

《市立小中学校の児童生徒数の見込み》

(人)

市立小学校	R5	R6	R7	R8	R9
宮津小学校	378	358	340	318	298
栗田小学校	68	71	60	61	55
吉津小学校	57	56	57	60	65
府中小学校	79	76	70	68	57
日置小学校	29	27	28	25	26
養老小学校	13	8	13	15	20
計	624	596	568	547	521

※R4.5.1時点の児童数をもとに推計。転入出による社会動態は反映していない。

(人)

市立中学校	R5	R6	R7	R8	R9
宮津中学校	225	224	230	206	201
栗田中学校	42	32	38	41	46
(橋立中学校)	90	96	89	86	79
計	357	352	357	333	326

※R4.5.1時点の生徒数をもとに推計。転入出による社会動態は反映していない。

### (3) 宮津の新たな学びの創造に向けた取り組み

今後も人口減少・少子高齢化が見込まれる中、教育は「未来への投資」であるとの認識のもと、令和3年3月に策定した『宮津市教育大綱・教育振興基本計画』において、教育の基本理念を「豊かな学びを深めてふるさとを愛する人づくり」と定め、就学前から中学校卒業までの10年間を見据えた小中一貫教育を始めとした「宮津市ならではの教育」や生涯学習の推進など、子どもから大人までがそれぞれのライフステージに応じて学び、その学びを深めることで、ふるさとに誇りと愛着を持って、将来にわたり宮津を支える人づくりにつながる教育の創造を目指して取り組みを進めている。

#### ◆小中一貫教育の推進

○就学前から中学校卒業までの10年間を見据えた教育課程を編成

現行の「6・3制」の枠組みを維持しつつ、子どもの発達や学習の特性等に  
応じて4つの教育課程区分を導入し、就学前施設と小中学校の連携を深める

○『宮津市学力向上プラン』に基づく質の高い学力の育成

- ・ 漢字能力検定や英語検定を活用した国語教育及び英語教育の推進
- ・ 算数学び定着サポーター兼ICT支援員の配置による小学校算数科の学力の定着と向上
- ・ 専科教員による小学校外国語科・外国語活動の先行実施
- ・ 中学校教員の専門性を活かした乗入授業の実施 等

○栗田学院・宮津学院・4小連携の取り組み

- ・ 栗田小学校・栗田中学校を「栗田学院」として栗田幼稚園とも連携し小中一貫教育を推進
- ・ 宮津小学校・宮津中学校を「宮津学院」として、7つの就学前施設と連携し独自のアプローチカリキュラムを作成
- ・ 組合立橋立中学校に進学する4小学校（吉津小学校・府中小学校・日置小学校・養老小学校）はリモート授業等も活用しながら連携学習を実施

○独自の教育課程「ふるさとみやづ学」の実施

- ・ 学院での系統性のある計画と実践により、地域との協働による体験活動などを通じた探究学習を実施

## ◆コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の推進

### ○地域学校協働活動の推進

- 学院（中学校区）単位で「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」を設置し、地域と学校が連携・協働する活動を展開
- 宮津学院・栗田学院・北部4小学校に、学校と地域のコーディネーター役を担う「地域学校協働活動推進員」を配置
- 自然や歴史、生活文化等を題材とした宮津ならではの地域学校協働活動を展開し、児童生徒の地域貢献の意識の向上につなげる

## ◆GIGA スクール構想の推進

### ○児童生徒1人1台端末・高速大容量の通信ネットワークの整備による新しい学びの実現

- AIドリル等の活用による習熟度に応じた個別最適な学習の実施
- 遠隔地とのリモート交流等を通じたコミュニケーション能力の育成
- 「いつでも」「どの教科でも」「誰でも」、文房具の一つとしてタブレット端末を活用
- 授業と家庭を効果的につなぐ反転学習の実践
- 休校時などにおける家庭でのオンライン学習
- クラウドを活用した意見整理や資料づくりなど、協働的で主体的・対話的な学びにつながる授業改善の実践

#### (4) 学校教育・幼児教育に関わる課題

宮津の新たな学びを進めるうえで、課題となる点について、児童生徒・保護者・教職員等を対象に実施したアンケート結果及び教育懇話会等の意見をもとに分析した。

##### ① 児童生徒及び保護者・教職員等アンケートの結果から

- ・対象 宮津市立小中学校に通う児童生徒（小学6年生及び中学3年生）  
宮津市立小中学校保護者及び就学前施設年長児の保護者  
宮津市立小中学校・市立幼稚園・市立保育所の教職員及び保育士等
- ・実施時期 令和4年11月
- ・調査方法 web調査（学校・園等を通して配布）
- ・調査内容 学校・園の規模や教育・保育の内容について、児童生徒及び教職員、保護者が日頃感じている良い点や課題を調査するもの。

##### 【学校生活について】

- ・児童生徒のアンケートでは、学校規模に関わらず、現在の学校生活に対して肯定的な意見が多くみられた。
- ・「もっと良くなってほしいと思うこと」の問いでは、児童生徒では「学校の校舎や設備などの環境面」が最も多く、次いで「クラブ活動・部活動などの時間」「運動会等の学校行事」が多い結果となり、トイレ等の設備の充実や、学習以外の集団活動の充実が望まれていることが読み取れる。

##### 【これからの学校生活で重視したい点やもっと学びたいと思うこと】

- ・児童生徒のアンケートでは、「プログラミング」などの新しい学習や、「いろんな人と交流できる」「全校で取り組める行事」などの意見が多く、保護者や教職員では「多様な人との交流、多様な考え方に触れること」「学力の向上」「認知能力・非認知能力の育成」が多くなっており、多様な人との交流を通じた活動や新しい学びが求められていることが読み取れる。

##### 【学校の規模に関して良いと思うこと、課題だと思うこと】

- ・児童生徒のアンケートでは、「学年関係なく仲よく遊べる」「クラス全員で活動や意見交流ができる」「信頼感や団結力がある」「先生が丁寧に教えてくれる」など、現在の規模を肯定的に捉える意見が多くあった。一方で、少数ではあるが「人数が少ない」「人数が多いところと合併したら人間関係も学べると思う」などの意見があった。
- ・教職員のアンケートでは、大規模校では「個別指導が行いにくい」「1人1人のニーズに答えにくい」「行事に係る負担が大きい」「仕事量・事務量が多

い」などの課題がある一方で、小規模校では「人間関係が固定化される」「多様な考えが出にくい」「行事などが制限される」「校務が重複し負担が大きい」等の課題が出された。

【家庭や地域で学びたいこと、学ばせたいこと】

- 児童生徒・保護者ともに、「地域の祭りや行事に参加したい」「地域の人と交流したい」という意見が多数みられ、地域の資源を活用した体験や交流が望まれていることが読み取れる。
- また、教職員のアンケートでは、児童生徒数の減少により、教職員の人数も減少する中で、学校行事などについて、地域住民や保護者の関わりが必要不可欠であるという意見もみられた。

② 教育懇話会等の意見から

【小規模校であることの良い点】

- 意見や感想を発表できる機会が多く、全ての児童生徒に活躍の場がある
- 異なる学年の学習活動が組みやすく、様々な体験の機会を取り入れやすい
- 児童生徒の家庭の状況、教育環境等が把握しやすい
- 余裕をもって体育館、特別教室等を使用できる

【小規模校であることの課題点】

- 協働性を身につけることや友達との競い合いなどの取り組みの難しさを感じる
- 遊びやスポーツができない、大会に出られない等選択肢が減る
- 子ども同士が切磋琢磨しにくい環境にある
- 普段から少人数の集団にいるため、大勢の場で緊張してしまう
- 同じような人ばかりになり多様性がない

### 3. 検討の経過

- 宮津市学校施設等の在り方検討委員会は、これからの時代に求められる宮津市の教育について、保護者や地域住民、教員、保育施設職員など、幅広い層から意見を求め、今後 10 年、20 年先を見据えた希望ある提言となるよう検討を進めることとし意見交換を重ねてきました。
- 検討委員には 30 歳～40 歳代の保護者や教員が参画するとともに、市内 2 か所でワークショップ形式の「教育懇話会」を開催し、子育て世代の生の声を積極的に聴取し反映させることとしました。
- 合わせて、教育の当事者となる子ども達の思いを取り入れるため、高校生ビデオメッセージの依頼や小中学生のアンケート調査などを実施しました。
- 調査・審議の経過
  - ◆第 1 回検討委員会（令和 4 年 8 月 9 日）
    - ・事務局から検討委員会の目的、所掌事務の説明
    - ・委員長及び職務代理者の選出
    - ・市長より諮問事項の依頼
    - ・児童生徒数や学級数の推移、宮津市の教育の現状を共有
    - ・意見交換
  - ◆教育懇話会①宮津会場（令和 4 年 8 月 22 日）  
参加者 22 名（保護者、教員、地域住民等）
    - ・事務局から児童生徒数の推移、宮津市の教育の現状を説明
    - ・高校生ビデオメッセージの紹介
    - ・グループ討議（グループごとにテーマを決めて意見交換）
  - ◆教育懇話会②府中会場（令和 4 年 9 月 9 日）  
参加者 14 名（保護者、教員、地域住民等）
    - ・事務局から児童生徒数の推移、宮津市の教育の現状を説明
    - ・高校生ビデオメッセージの紹介（教育懇話会①と同じ）
    - ・グループ討議（グループごとにテーマを決めて意見交換）
  - ◆第 2 回検討委員会（令和 4 年 9 月 29 日）
    - ・教育懇話会の意見やキーワードを共有し、意見の掘り下げを行った
    - ・宮津の教育で「大切にしていきたいこと」をテーマに意見交換
  - ◆第 3 回検討委員会（令和 4 年 10 月 24 日・10 月 29 日）
    - ・事務局から提言書の骨子案、アンケート調査について説明
    - ・大切にしたい視点・目指すべき子ども像について意見交換
  - ◆学校教育・幼児教育に関するアンケート（令和 4 年 11 月 16 日-23 日）  
対象①宮津市立小中学校に通う児童生徒（小学 6 年生及び中学 3 年生）

②宮津市立小中学校・市立幼稚園・市立保育所の教職員及び保育士等

③宮津市立小中学校に通う児童生徒の保護者、

市立幼稚園・市立保育所・民間保育施設等に通う年長児の保護者

調査方法 Microsoft Forms を使用し、学校・園等を通して配布

調査内容 学校・園の規模や教育・保育の内容について、児童生徒及び教職員、保護者が日頃感じている良い点や課題を調査するもの。

◆第4回検討委員会（令和4年11月29日）

- ・児童生徒、保護者、教職員等のアンケート結果について報告
- ・提言書（素案）について検討、意見交換

#### 4. 【提言】これからの時代に求められる学校・学校施設の在り方について

宮津市学校施設等の在り方検討委員会に諮問された事項は、(1) 求められる資質や能力を育成するために必要な教育環境、(2) 望ましい幼児教育の在り方、(3) 望ましい教育環境の実現に向けた学校施設等の配置 の3点です。

これらの諮問事項に対し、検討委員会では、宮津市の教育についての現状、課題を話し合い、目指す学校教育等について検討する中で、(1) 宮津市が目指すべき教育、(2) 望ましい教育環境の実現に向けて の視点で議論し、これからの時代に求められる学校・学校施設の在り方について提言を取りまとめました。

##### (1) 宮津市の目指すべき教育

###### ① 多様性を認め合い、自立心を高め合う豊かな学び

学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が、集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力、表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが求められています。とりわけ、少子化が進み学校規模が小さくなる状況においては、ある程度の規模の集団のもと、このような営みを進めることが大変重要です。

先行きが不透明で予測困難な社会において、子ども達を取り巻く環境が変化しても、地域社会の一員として活躍する人づくりを進めるため、学校・家庭・地域等人のつながりを大切に、子ども達一人一人の多様性が認められ、幼少期からお互いを尊重し認め合うことのできる「共感力」を育む学びが求められます。

いろいろな価値観や背景をもつ人々の集団の中で、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題、経験したことのない課題を解決する能力「コミュニケーション能力」を培い、非認知能力の育成・向上を図ることを期待します。

このような教育を進めるうえで大切にしたい視点を次のとおり提案します。

- 学校・家庭・地域のつながり、人との関わりを大切にし、安心できる、認められる場所としての教育の場の実現を図ること。

- 教育活動の中に協働的な学びと教科横断的な探究活動を取り入れること。
- 体験・経験を通じた豊かな学びを充実させるとともに、ICT を活用した新たな学びの場を創出すること。
- 学校・家庭・地域が協働で教育に取り組む仕組みづくりを推進し、地域力の強化及び地域の活性化につなげること。
- 教員や保育士が共に学び合える場を創出すること。

## ② 「生きる力」の基礎を育む幼児教育・保育

幼児期は、身体感覚を伴う多様な活動を経験することによって、生涯にわたる学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を培い、また、小学校以降における教科の内容等について実感を伴って深く理解できることにつながる「学びの芽生え」を育む重要な時期です。

幼稚園・保育所等は、子ども主体の遊びや学び、集団活動を通して、幼児期に育みたい協調性、社交性、道徳性などの「人と関わる力」、あるいは自己肯定感、自制心、自信などの「自分に関する力」などの「非認知能力」を育み、「生きる力」の基礎を育成する役割を担っています。

学校教育のはじまりとしての幼児教育においては、小学校との円滑な接続が図られるよう、小中一貫教育の枠組みにおいてアプローチカリキュラム等の実践が大変重要です。

このように、幼児教育・保育は大変重要であるが、少子化の進展とともに、今後さらなる子どもの減少が見込まれるなか、今までのような幼児教育の重要性や保育ニーズを鑑みて、今後の子育て支援施策の一環として、例えば、認定こども園化など、保護者の就労等の有無に関わらず、教育と保育を一体的に提供できる施設として、機能の充実を検討することが必要であると考えます。

## ③ ふるさとみやづの魅力を活かした学び

宮津市には、海・里・山の豊かな自然や、各地域に息づく多様な伝統や文化・歴史など、体験学習に活用できる素材がたくさんあります。

宮津市がこれまで取り組んできた「ふるさとみやづ学」のさらなる充実を図るとともに、様々な教育活動の中に、宮津の豊かな自然環境や地域資源を最大限に活用し、体験型の学習を多く取り入れ、子ども達が五感を通して学び、深める取り組みが行われるよう求めます。

## (2) 望ましい教育環境の実現に向けて

将来の予測が困難で変化が激しい社会においては、子ども達が、就学前から小中学校において、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力、表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に付けることができる教育環境の実現が求められています。そのような教育を行うためには、ある程度の規模の児童生徒の集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが必要です。

このようなことから、小中学校・園については、ある程度の規模が必要であると考えられ、きわめて小規模の場合は、保護者や地域の理解、支援のもと、統合を検討していくことが必要であると考えます。

学校・園の再編・統合にあたっては、子ども達の豊かな学びを保障することを第一義とし、保護者や地域住民、学校関係者等が参画する懇談会等を設置し、再編・統廃合に向けた検討を行うこと。小規模であるがゆえに困難であった教育活動の充実や様々な文化・スポーツに親しむ機会の充実などが図られるように努めること。また、現在の教育的課題に対応する新たな機能を付加した「新しい学校・園」となるよう期待しています。

また、学校生活の基盤となるトイレや空調、耐震化など施設整備については、安全・快適な学校施設の確保を強く要望します。

## 5. 結びにあたって

当委員会では、子ども達が将来に向け幸せに生きていく力をつけるために、何を大切にしなければならないのか、どのような教育内容が望ましいのか、それを実現するために、どのような環境が必要となるのか、検討を進めてきました。

学校教育等の在り方については、予測困難で変化が激しい社会において求められる資質・能力は何なのか、それを実現するためにどうしていくのかなど、考え続ける必要があります。加えて、今後さらなる学校等の小規模化が見込まれる中、それによって生じる課題にどう対応していくのかなど、持続可能な質の高い教育の推進に向けて、今後とも、継続的に検討していかなければなりません。

あくまでも、これからの時代に生きる子どもたちのために、児童生徒の教育環境・条件の改善の観点を中心に据え、教育の果たすべき役割をより良く実現し、子ども達に時代を担うしっかりとした力を育成するために、本提言を契機として、学校・家庭・地域・行政が一体となって、より良い教育の実現に取り組まれることを期待します。

## 6. 資料編

### (1) 宮津市学校施設等の在り方検討委員会設置要綱

宮津市告示第101号

宮津市学校施設等の在り方検討委員会設置要綱を次のように定める。

令和4年7月29日

宮津市長 城崎雅文

宮津市学校施設等の在り方検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 宮津市立小学校、宮津市立中学校、宮津市立幼稚園、宮津市立保育所及び宮津市内に住所を有する特定教育・保育施設、私立幼稚園並びに認可外保育施設（以下「学校施設等」という。）について、これからの時代に求められる望ましい教育の在り方を検討するに当たり、幅広い見地からの助言及び提言を得るため、宮津市学校施設等の在り方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、その結果を市長に報告する。

- (1) 児童生徒のこれからの時代に求められる資質や能力を育成するために必要な教育環境に関すること。
- (2) 幼児期の教育の在り方に関すること。
- (3) 望ましい教育環境の実現に向けた学校施設等の配置に関すること。
- (4) その他学校教育及び幼児期の教育に関し、市長が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 自治会関係者
- (3) 教育関係団体の代表者
- (4) 福祉関係団体の代表者
- (5) 学校施設等の職員
- (6) 行政機関の職員
- (7) その他市長が必要と認める者

3 委員の任期は、委嘱又は任命の日から前条に規定する審議結果を市長に報告する日までとする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、会務を総理する。
- 4 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。ただし、委員が委嘱された最初に招集すべき会議は、市長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 4 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見又は説明を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、学校教育担当課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、告示の日から施行する。

(要綱の失効)

- 2 この要綱は、第2条の規定による報告の日限り、その効力を失う。

(2) 宮津市学校施設等の在り方検討委員会委員名簿

氏名	所属団体等	備考
竺 沙 知 章	京都教育大学 副学長 (教授)	学識経験者
川 勝 健 志	京都府立大学 副学長 (教授)	学識経験者
岩 田 光 雄	宮津市自治連合協議会	地域
小 田 原 道 子	宮津市民生児童委員協議会	地域
古 澤 武 夫	宮津市PTA協議会 (中学校)	小中学校の保護者
廣 野 康 昭	宮津市PTA協議会 (小学校)	小中学校の保護者
中 村 佐 知 子	保護者会 (幼稚園)	就学前児童の保護者
吉 田 真 与	公立保育所保護者会	就学前児童の保護者
井 上 裕 介	宮津市立学校教職員	学校関係者
杉 本 学	宮津市立学校教職員	学校関係者
橋 本 陽 子	宮津市公立保育所所長会	就学前施設関係者
伊 藤 正	宮津市教育委員会教育長職務代理	行政機関

(敬称略)

### (3) 諮問書

令和4年8月9日

宮津市学校施設等の在り方検討委員会 様

宮津市長 城崎 雅文



これからの時代に求められる学校・学校施設等のあり方について（諮問）

社会のあり方が劇的に変わる「Society5.0時代」や新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」が到来する中、子ども達を取り巻く環境が変化しても、持続的に魅力ある学校教育が実現できるよう、宮津市学校施設等の在り方検討委員会設置要綱第2条の規定により、次に掲げる事項について答申いただきたく、諮問いたします。

#### 1 諮問事項

これからの時代に求められる宮津市の学校・学校施設等のあり方について

- (1) 求められる資質や能力を育成するために必要な教育環境のあり方
- (2) 望ましい幼児教育のあり方
- (3) 望ましい教育環境の実現に向けた学校施設等の配置について

#### 2 諮問理由

一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会としての「Society5.0時代」や、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」が到来する中、教育の現場では、すべての子ども達の可能性を引き出す「個別最適な学び」と多様な他者との「協働的な学び」の実現が求められています。

子ども達を取り巻く環境が変化しても、全ての子ども達が、安心して楽しく通える魅力ある学校教育が実現できるよう、5年後、10年後、あるいは将来に向かって求められる学校教育のあり方や学校配置、学校間の連携などについて総合的に議論し、これからの時代に求められる学校・学校施設等のあり方について答申いただきたいと存じます。

#### (4) 検討委員会の開催状況

##### ◆第1回検討委員会の議論

- 事務局から検討委員会の目的、所掌事務の説明
- 委員長及び職務代理者の選出
- 市長より諮問事項の依頼
- 児童生徒数や学級数の推移、宮津市の教育の現状を共有
- 意見交換

##### [主な意見]

- ・児童生徒数の減少により子ども同士が競争や切磋琢磨しにくい環境
- ・学校の統廃合について不安を抱える保護者もいる
- ・普段が少人数のため大勢の場に行くと緊張する
- ・親としては毎日楽しく学校に通ってほしい
- ・小中一貫教育の良さが見えてこない
- ・学校と家庭と地域が思いを共有することが重要
- ・人数が少ない中で協働性を身につけることや友達との競い合いの取組の難しさを感じる
- ・体験や人とのつながりを大切にしたい
- ・少人数だからできることもある
- ・児童生徒数が減少しても子ども達が充実して学べる環境の検討を
- ・学校と家庭と地域の三者一体の取り組みが教育の質の向上につながる
- ・できるだけ子どもと向き合う時間を
- ・小中一貫教育の推進を突破口に
- ・「地域とのつながり」「人とのつながり」がキーワード

##### ◆第2回検討委員会の議論

- 教育懇話会の意見やキーワードを共有し、意見の掘り下げを行った
- 宮津の教育で「大切にしていきたいこと」をテーマに意見交換

##### [主な意見]

- ・子どもたちが楽しいと思うことが大切
- ・「遊び」を「学び」につなげる
- ・10年後、20年後にどんな姿になるのか、みんなが同じ方向を向いて教育を進めることが必要
- ・心遣いができる、思いやりのある、言葉や態度を大切に
- ・「やっぱり宮津がいい、住みたい」と思える落ち着いた場づくり
- ・子ども達があこがれる大人になる
- ・やりたいことを声に出せる、やりたいことが実現できる環境づくり

- 学校だけでなく、地域、家庭、保護者の協力のもとに実現していく
- 自然は遊びの要素と思える価値観を育てていけるように
- 学校、社会とつなぎながら、紡いでいく
- 学校、地域、家庭をどうつないでいくのか
- まずは、子どもの居場所づくり、それから地域
- スポーツの大切さ。試合等は日々の練習の成果を出せる場所。人数が少なくなる難しさがある。
- 今の子どもは何もないところで遊べない。昔は、なにもなければ自分で作って遊んだ
- 子どもに生きる力がついていないと感じる
- 「この力をつけたい」と思って伸ばす。より早くより大きく伸びるのではないか。

#### ◆第3回検討委員会の議論

○事務局から提言書の骨子案、アンケート調査について説明

○大切にしたい視点・目指すべき子ども像について意見交換

[主な意見]

- これまでの検討のプロセスを大切にしたい。
- アンケートで子ども達の思いを聞いていきたい。
- 学ぶことの楽しさを実感できるような学校教育を目指したい。
- 先生を育てていく環境も大切。教える側にも多様性が必要ではないか。
- 提言によって学校と保護者と地域の繋がりを見直す機会になるとよい。
- 地域全体で子どもを育てていくという視点が大切。
- 「地域の活性化」として地域活動の輪を広げていきたい。
- 大人の側が子どもの声に触れる機会を増やしていくことも大切。
- 児童生徒の人数だけではなく、教育の内容で施設の在り方を考えていくことが大切。

#### ◆第4回検討委員会の議論

○児童生徒、保護者、教職員等アンケート結果の報告・意見交換

○提言書の修正について意見交換、素案の確認

[主な意見]

- 児童生徒のアンケートでは教育環境の充実を求める意見が多い。対策を検討する必要がある。
- 保護者や教職員等のアンケートでは規模の小さい学校で「人間関係の固定化」という課題が出ている。

- 地域の行事や祭りに参加したいという意見が多くみられる。
- 提言書に書き込む文言について、読み手に意味が伝わりにくい表現は注釈を加えるなど工夫が必要。
- 望ましい教育環境の実現に向けて、学校等の統廃合についても選択肢の一つとして示すべき。
- 学校が地域からなくなることに伴い、地域とのつながりをどう担保していくのか、ということも検討する必要がある。
- 学校の在り方の検討を通して、宮津市の未来について考える場になったと思う。
- 同じ方向を向いて皆で議論することの大切さを感じた。

## (5) 教育懇話会の開催状況

### ◆教育懇話会①(宮津会場) 参加者22名(保護者、教員、地域住民等)

○事務局から児童生徒数の推移、宮津市の教育の現状を説明

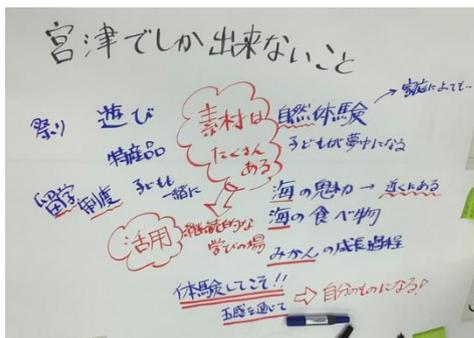
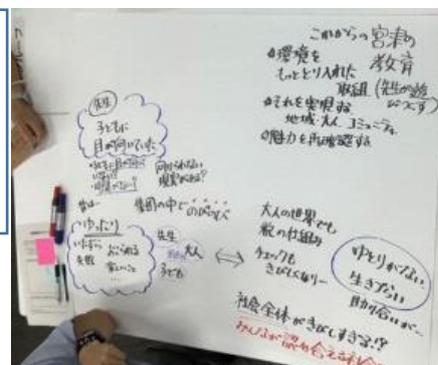
○高校生ビデオメッセージの紹介

- ◇ 小中学校を振り返って、勉強を頑張ったと思う。
- ◇ 共通の話題があるグループが、小学校時の居場所だった。
- ◇ 小学校時は少人数でみんな仲良かったけど、もう少し人数がいて、いろんな人と出会えて、いろんな考えを知ることができたらよかったと思う。
- ◇ 中学校ではクラスの人数が増えて、はじめは慣れなかった。
- ◇ 学校の先生は、他の職業を経験するなど、世間を知った方がいいと思った。

○グループ討議(グループごとにテーマを決めて意見交換)

「これからの宮津の教育について」

- 環境をもっと取り入れた取組を(先生が遊びつくす)
- それを実現する地域、大人、コミュニティが大切
- 魅力を再確認する
- 昔は集団の中でのびのび⇔今はゆとりがない、生きづらい
- みんなが認め合える社会を

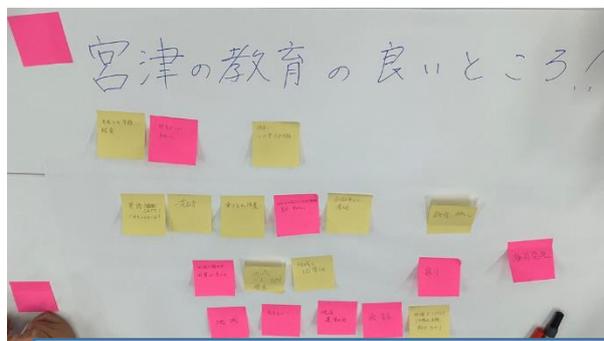
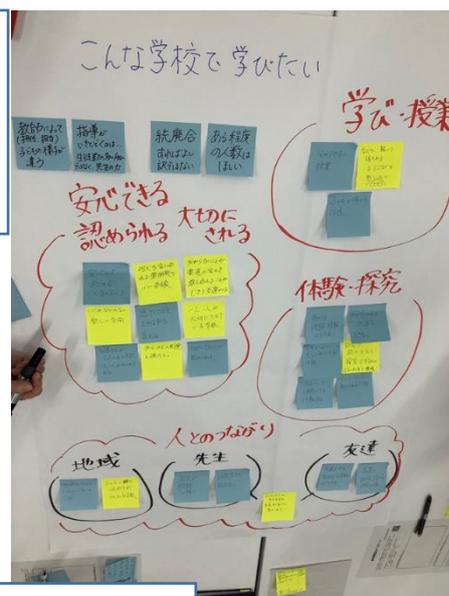


「宮津でしか出来ないこと」

- 祭り、遊び、特産品、自然体験、海の魅力、海の食べ物、みかんの成長過程など素材はたくさんある  
⇒継続的な学びの場として活用
- 体験してこそ、五感を通じて自分のものになる
- 留学制度(児童数の多い学校と少ない学校で体験留学)

「こんな学校で学びたい」

- 安心できる、認められる、大切にされる学校
- わかりやすい授業、子どもが伸びる学校
- 色々な体験、経験ができる学校
- 地域、先生、友達とのつながりが作れる学校
- ある程度の人数は欲しいが統廃合すれば良いわけではない



「宮津の教育の良いところ」

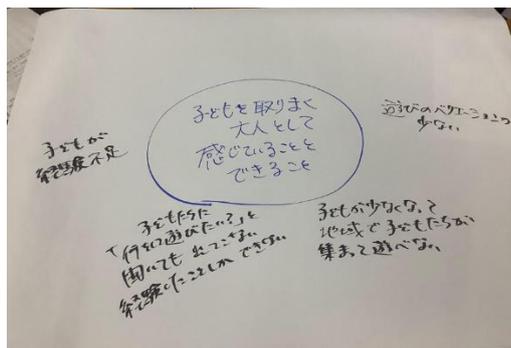
- 手作りの学校給食、給食が美味しい
- 英語に力を入れている、一貫教育、乗入授業、海外交流
- 地域の歴史や風習が学べる、地区運動会、祭り、地域ボランティアが活発

◆教育懇話会②（府中会場） 参加者 14 名（保護者、教員、地域住民等）

- 事務局から児童生徒数の推移、宮津市の教育の現状を説明
- 高校生ビデオメッセージの紹介（教育懇話会①と同じ）
- グループ討議（グループごとにテーマを決めて意見交換）

「子どもを取りまく大人として感じていること、できること」

- ・子どもが経験不足、遊びのバリエーションが少ない。
- ・子ども達に「何をして遊びたい？」と聞いても出てこない。経験したことしかできない。子どもが少なくなって地域で子ども達が集まって遊べない。

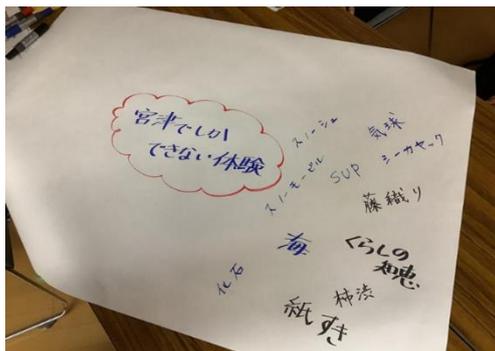
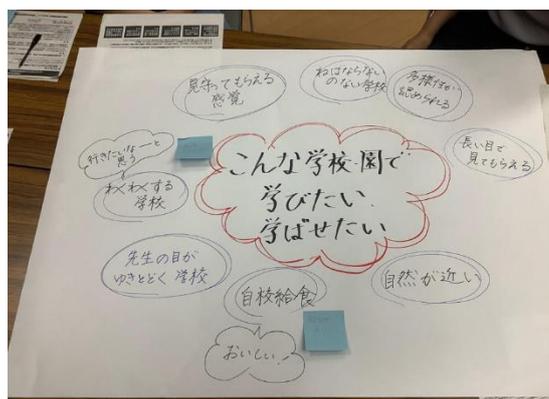


「宮津ならではの」

- ・伝統行事への参加と継承、丹後国府に関わる寺社仏閣の調査
- ・海水浴、股のそき、天橋立ウォーク、新鮮な海鮮を食べる
- ・日本三景、人の良さ、プール授業を海で、宮津おどり、食べ物

「こんな学校・園で学びたい、学ばせたい」

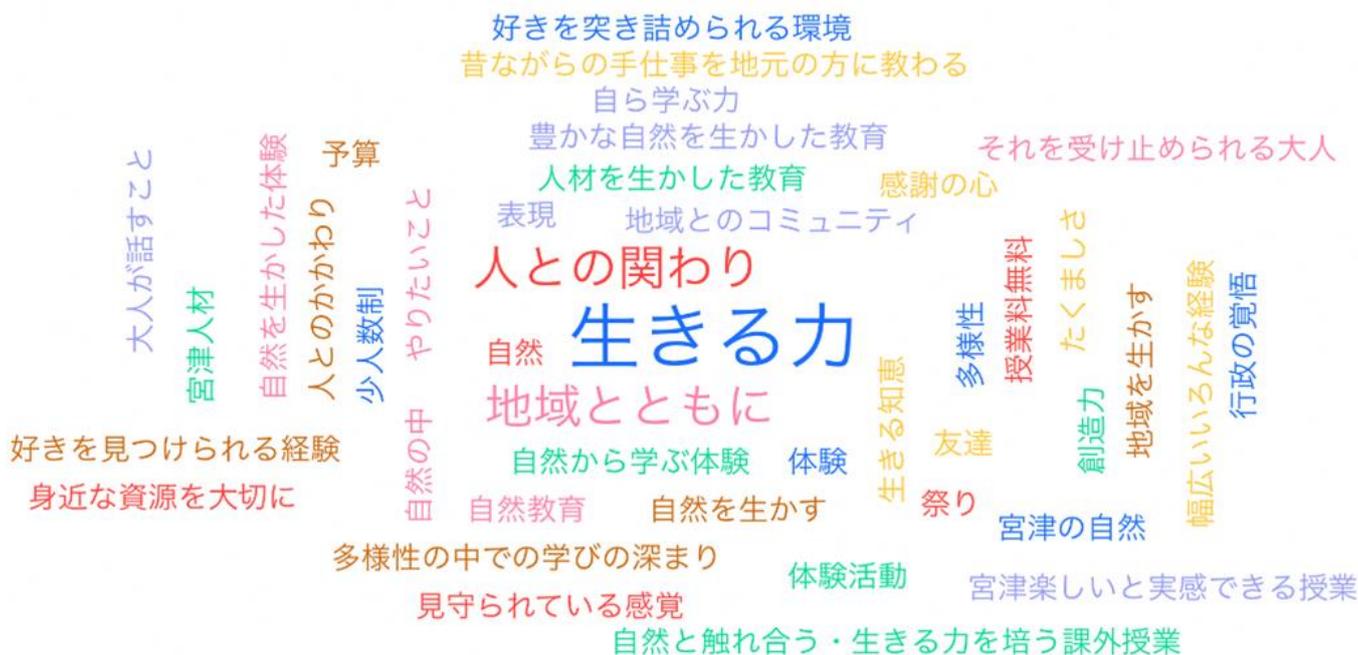
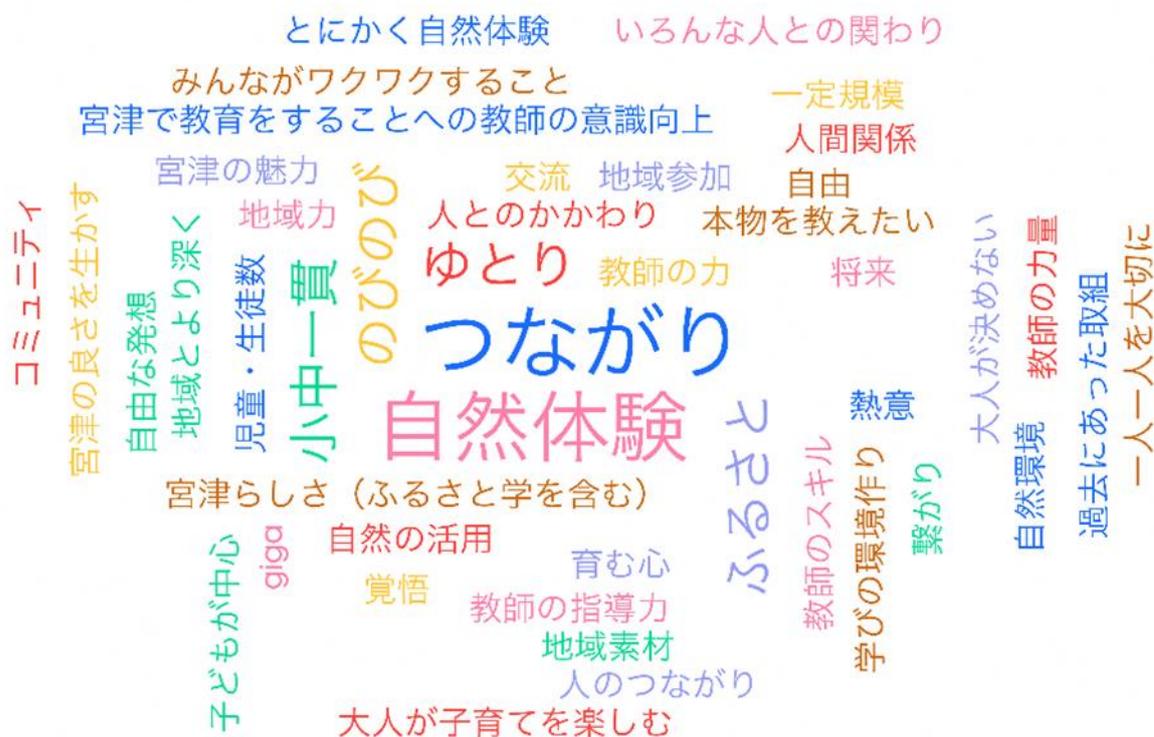
- ・見守ってもらえる感覚
- ・～ねばならないのない学校
- ・多様性が認められる
- ・行きたいな～と思うわくわくする学校
- ・長い目で見てもらえる
- ・先生の目が行き届く学校
- ・自校給食、自然が近い



「宮津でしかできない体験」

- ・スノーモービル、スノーシュー、化石、紙すき、柿渋、海、SUP、気球、シーカヤック、藤織り、暮らしの知恵

○教育懇話会参加者の感想、キーワード

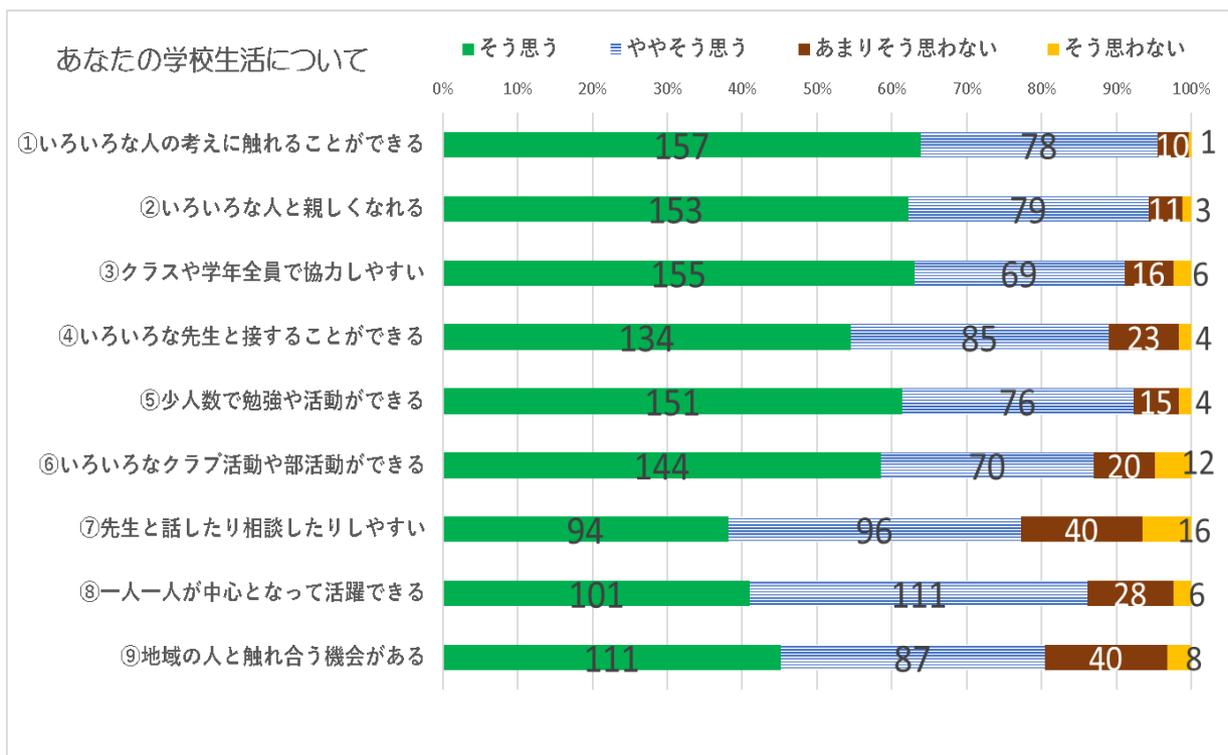


## (6) 児童生徒、保護者、教職員等アンケート結果概要

- ・対 象 宮津市立小中学校に通う児童生徒（小学6年生及び中学3年生）  
宮津市立小中学校保護者及び就学前施設年長児の保護者  
宮津市立小中学校・市立幼稚園・市立保育所の教職員及び保育士等
- ・実施時期 令和4年11月
- ・調査方法 web調査（学校・園等を通して配布）
- ・調査内容 学校・園の規模や教育・保育の内容について、児童生徒及び教職員、保護者が日頃感じている良い点や課題を調査するもの。

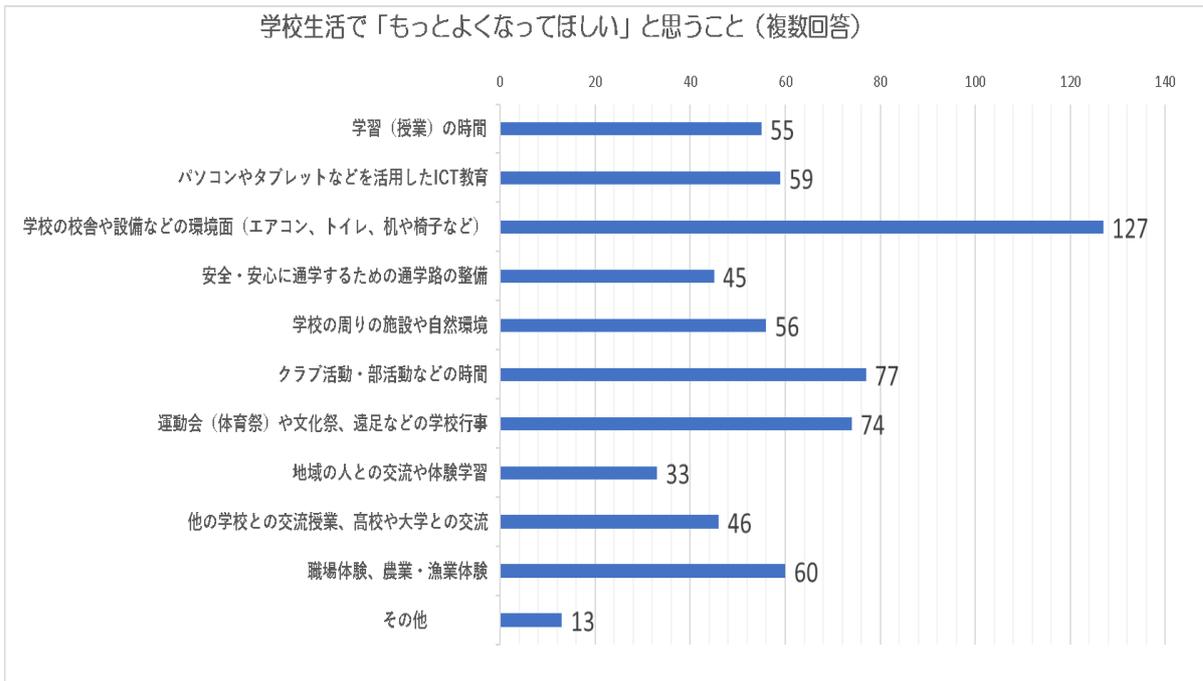
### ◆児童生徒対象「学校生活に関するアンケート」結果概要

（回答者数 205 人、対象：小6・中3 228 人、回答率 90.0%）



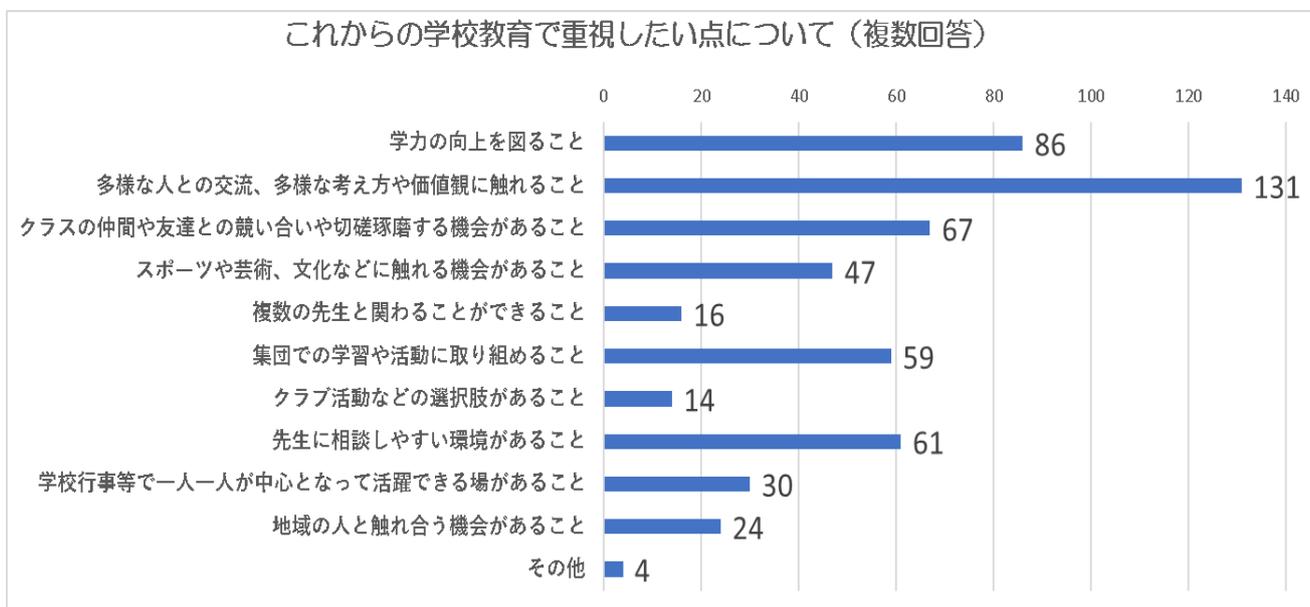
#### ➤ 学校生活について

「いろいろな人の考えに触れることができる」「いろいろな人と親しくなれる」「クラスや学年全員で協力しやすい」等の項目に『そう思う』『ややそう思う』と回答する割合が9割を超えて高くなる一方で、「先生と話したり相談しやすい」「地域の人と触れ合う機会がある」の項目では『あまりそう思わない』『そう思わない』と回答した割合が2割となった。

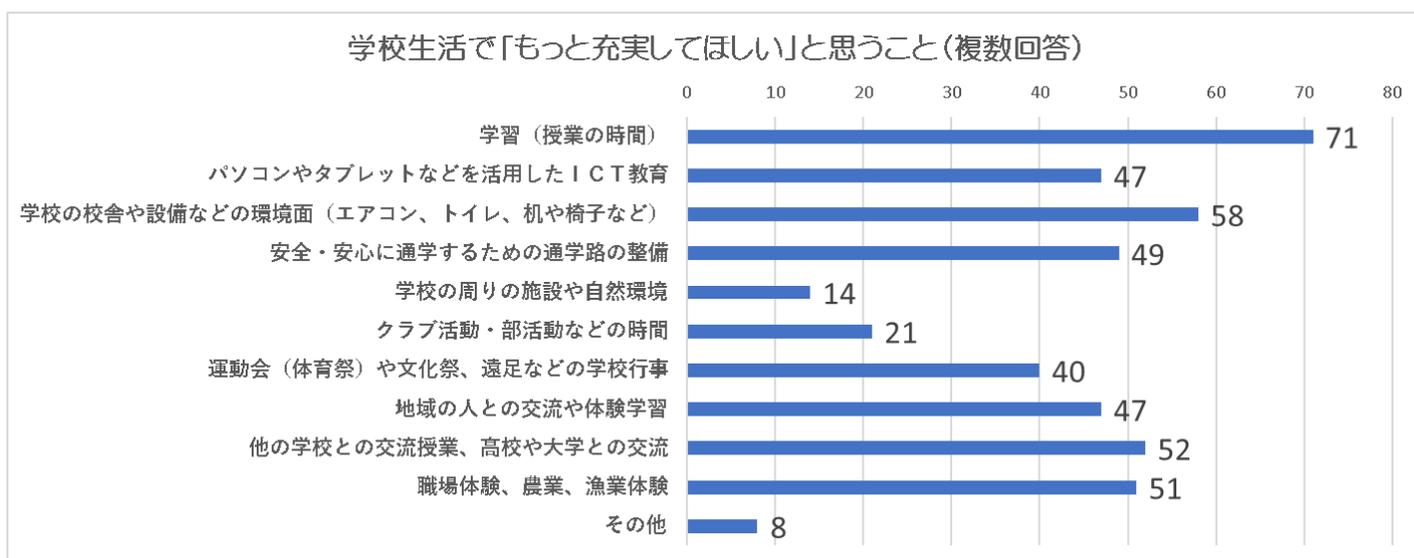


- 学校生活でもっとよくなってほしいと思うこと  
「学校の校舎や施設などの環境面」が最も多く、次いで「クラブ活動・部活動などの時間」「運動会や文化祭、遠足等の学校行事」が多くなった。
- 学校でもっと学びたいこと（自由記述）  
プログラミングやゲーム作りなどの意見が多く出たほか、「みんなで協力する機会を増やしてほしい」「全校での関わりを増やしたい」「いろんな体験やスポーツをしてみたい」等の意見がみられた。
- 地域でもっとやってみたいこと（自由記述）  
どの学校においても、「地域の祭り」や「伝統行事」に参加したいという意見が多く出たほか、「ボランティア活動」や「仕事体験」「地域の人ともっと関わることがしたい」という意見も多くみられた。
- 学校生活について意見や感想（自由記述）  
小学校では、「いろいろな人と交流できる」「学年関係なく楽しく遊べる」という意見がある一方で、「人数が少ない」「人数がたくさんいるところと合併したら人間関係も学べると思う」という意見が見られた。  
中学校では、トイレや更衣室など「施設面の改善」を求める意見が多く出された。

◆保護者対象「学校教育に関するアンケート」結果概要  
 (回答者数 173 人、対象：小中学校及び年長児の保護者)



- これからの学校教育で重視したい点  
 「多様な人との交流、多様な考え方や価値観に触れること」が最も多く、次いで「学力の向上を図ること」「クラスの仲間や友達との競い合いや切磋琢磨する機会があること」が多くなった。

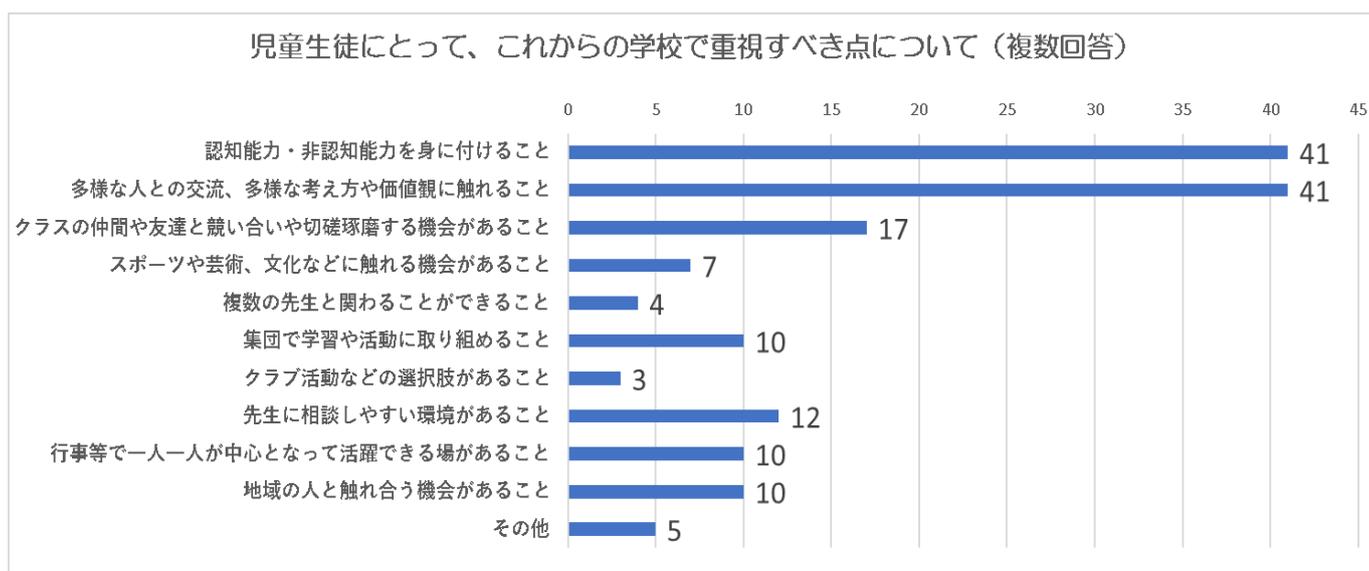


- 学校生活でもっと充実してほしいこと  
 「学習 (授業) の時間」が最も多く、次いで「学校の校舎や設備などの環境面」「他の学校との交流授業、高校や大学との交流」が多くなった。

- 学校でもっと学ばせたいと思うこと（自由記述）  
「対人関係」「人とのつながり」「多様性の受容」「自分とは異なる考え方があること」「コミュニケーション力」など、人との関わり方に関する意見が多くみられたほか、「体験学習」「主体的な学び」「学ぶ楽しさ」などの意見もみられた。
- 地域や家庭でもっとさせてみたいこと（自由記述）  
「地域行事への参加」「地域の人との交流」「自然体験」「ボランティア活動」などの意見が多くみられた。また高校生や大学生、外国の方など地域外の人との交流を望む意見も寄せられた。

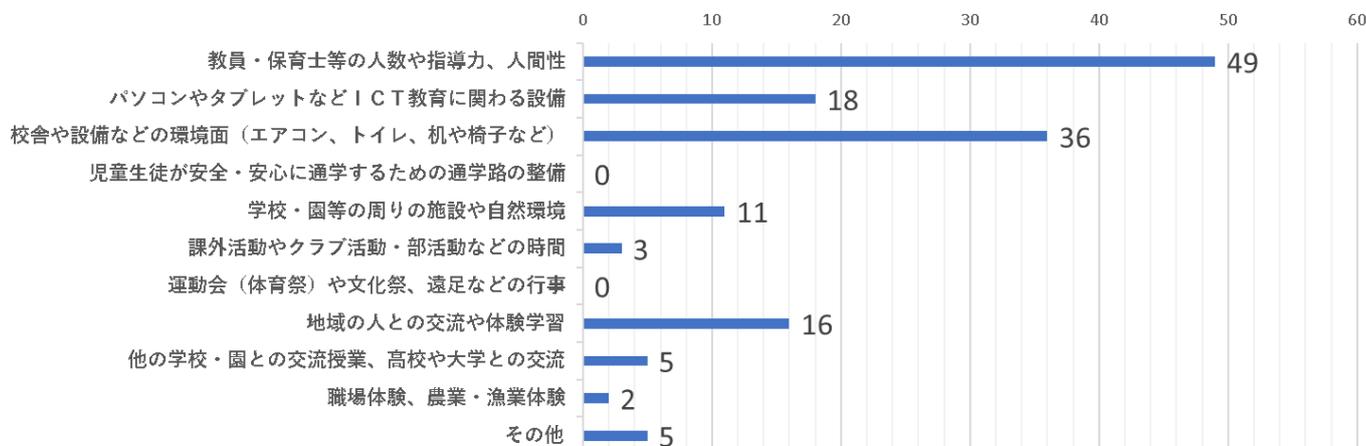
#### ◆教職員対象「学校教育・幼児教育に関するアンケート」結果概要

（回答者数 56 人、対象：小中学校及び市立幼稚園・保育所の教職員等）



- これからの学校教育で重視すべき点  
「認知能力・非認知能力を身につけること」「多様な人との交流、多様な考え方や価値観に触れること」が最も多く、次いで「クラスの仲間や友達と競い合いや切磋琢磨する機会があること」が多くなった。
- 学校や園等でもっと充実してほしいこと  
「教員・保育士の人数や指導力、人間性」が最も多く、次いで「校舎や設備などの環境面」「パソコンやタブレットなど ICT 教育に関わる設備」が多くなった。

### 学校や園等で「もっと充実してほしい」と思うこと（複数回答）



### ➤ 現在の勤務校（園）の規模について課題だと思うところ（自由記述） 【児童生徒への教育や保育の視点から】

	大規模校	小規模校
①学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団での学びが自分ごとになりにくい。</li> <li>・1人1人の学習状況の把握が難しい。</li> <li>・人数が多く子ども達のニーズに対応しにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体性が弱い。</li> <li>・学びの幅が広がりにくい。</li> <li>・できることに限りがある。</li> <li>・少人数のため葛藤体験が少ない。</li> </ul>
②生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭との連携が取りにくい。</li> <li>・ルールや約束が守り切れず周りに流されてしまうことがある。</li> <li>・規範意識が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題や逆境に立ち向かう力や気持ちの立て直しが弱い。</li> <li>・人間関係が限定される。</li> <li>・手本の絶対数が少ない。</li> <li>・色々な経験が少ない。</li> </ul>
③行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人数が意欲的に向かうことが難しい。</li> <li>・大勢が動くため時間配分や共通理解が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数によって、できない事や高学年の負担が大ききことがある。</li> </ul>
④クラブ活動・課外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所や内容などの調整。</li> <li>・指導体制が整わず教員の負担感がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団で行うスポーツなどが実施しにくい。</li> <li>・クラブの種類が少ない。選択肢に欠ける。</li> </ul>
⑤集団生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規律が徹底しにくい。</li> <li>・感染予防をしながらいかに集団生活を行うか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係が固定化される。</li> <li>・多様な考えが出にくい。</li> <li>・同年齢児との関わりや学び合いが少なくなっている。</li> </ul>

【学校や園の運営の視点から】

	大規模校	小規模校
①学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の状況に応じた個別指導が十分に行えない。</li> <li>・小中一貫教育による変容が検証しにくい。</li> <li>・教職員の情報共有が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の広がりが少ない。</li> <li>・学びを深めるためには一定の人数が必要である。</li> <li>・主体性やチャレンジ精神が弱い。</li> </ul>
②生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん子ども達が様々な課題を抱えており、丁寧に対応していくための時間が必要。</li> <li>・一部の教員に負担が集中している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の人数が少なく指導が固定化される。</li> <li>・教員によって負担感に差がある。</li> </ul>
③行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事に係る負担が大きい。</li> <li>・行事の重なりが多い時期がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が少なく1人1人の負担が大きい。</li> <li>・教員数が少ないため地域や保護者の協力が不可欠。</li> </ul>
④教職員の研修や校務事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職務が多く研修や校務の時間が確保しにくい。</li> <li>・事務量が一向に減らない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事が特定の教員に集中している。</li> <li>・教員数が少なく校務が重複している。</li> </ul>
⑤地域や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携を取るのに時間がかかる。</li> <li>・保護者への連絡方法など改善が必要。</li> <li>・子ども達のことをもっと知ってもらう機会があると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の関わりが深い分、精査できていないこともある。</li> </ul>